

テーマ：消費者物価（全国13年12月、東京都区部14年1月）

～着実に改善～

発表日：2014年1月31日（金）

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 主席エコノミスト 新家 義貴
 TEL：03-5221-4528

（単位：％）

		全国					東京都区部				
		総合	生鮮除く総合	食料（酒類除く）及びエネルギー除く総合	石油製品	生鮮食品を除く食料	総合	生鮮除く総合	食料（酒類除く）及びエネルギー除く総合	石油製品	生鮮食品を除く食料
		前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
12	1月	0.1	▲ 0.1	▲ 0.9	4.3	0.3	▲ 0.2	▲ 0.4	▲ 1.1	4.4	▲ 0.3
	2月	0.3	0.1	▲ 0.6	3.0	0.4	▲ 0.2	▲ 0.3	▲ 1.1	3.9	▲ 0.2
	3月	0.5	0.2	▲ 0.5	4.2	0.3	▲ 0.1	▲ 0.3	▲ 1.0	5.3	▲ 0.2
	4月	0.4	0.2	▲ 0.3	3.9	▲ 0.3	▲ 0.3	▲ 0.5	▲ 1.0	3.5	▲ 1.2
	5月	0.2	▲ 0.1	▲ 0.6	1.5	▲ 0.2	▲ 0.5	▲ 0.8	▲ 1.3	0.3	▲ 0.7
	6月	▲ 0.2	▲ 0.2	▲ 0.6	▲ 1.7	0.1	▲ 0.6	▲ 0.6	▲ 1.0	▲ 3.2	▲ 0.6
	7月	▲ 0.4	▲ 0.3	▲ 0.6	▲ 4.0	0.1	▲ 0.8	▲ 0.6	▲ 1.0	▲ 5.0	▲ 0.6
	8月	▲ 0.4	▲ 0.3	▲ 0.5	▲ 4.1	0.0	▲ 0.7	▲ 0.5	▲ 0.9	▲ 3.8	▲ 0.8
	9月	▲ 0.3	▲ 0.1	▲ 0.6	1.8	▲ 0.1	▲ 0.7	▲ 0.4	▲ 1.1	2.5	▲ 0.7
	10月	▲ 0.4	0.0	▲ 0.5	3.9	▲ 0.2	▲ 0.8	▲ 0.4	▲ 1.0	3.4	▲ 0.9
	11月	▲ 0.2	▲ 0.1	▲ 0.5	2.8	▲ 0.2	▲ 0.5	▲ 0.5	▲ 0.9	2.4	▲ 1.0
	12月	▲ 0.1	▲ 0.2	▲ 0.6	3.1	▲ 0.4	▲ 0.6	▲ 0.6	▲ 1.0	1.7	▲ 1.2
13	1月	▲ 0.3	▲ 0.2	▲ 0.7	4.8	▲ 0.4	▲ 0.5	▲ 0.5	▲ 0.9	3.8	▲ 1.0
	2月	▲ 0.7	▲ 0.3	▲ 0.9	7.9	▲ 0.5	▲ 0.9	▲ 0.6	▲ 1.0	7.0	▲ 1.1
	3月	▲ 0.9	▲ 0.5	▲ 0.8	1.8	▲ 0.6	▲ 1.0	▲ 0.5	▲ 0.8	▲ 0.9	▲ 1.2
	4月	▲ 0.7	▲ 0.4	▲ 0.6	▲ 0.9	▲ 0.6	▲ 0.6	▲ 0.3	▲ 0.7	▲ 1.7	▲ 0.8
	5月	▲ 0.3	0.0	▲ 0.4	▲ 0.4	▲ 0.4	▲ 0.2	0.1	▲ 0.3	0.0	▲ 0.7
	6月	0.2	0.4	▲ 0.2	5.0	▲ 0.3	0.0	0.2	▲ 0.4	6.2	▲ 0.6
	7月	0.7	0.7	▲ 0.1	8.4	▲ 0.3	0.4	0.3	▲ 0.4	9.5	▲ 0.4
	8月	0.9	0.8	▲ 0.1	10.5	0.0	0.5	0.4	▲ 0.4	9.9	0.1
	9月	1.1	0.7	0.0	7.6	0.1	0.5	0.2	▲ 0.4	7.6	0.2
	10月	1.1	0.9	0.3	6.4	0.2	0.6	0.3	▲ 0.2	5.7	0.4
	11月	1.5	1.2	0.6	7.7	0.4	1.0	0.6	0.2	7.0	0.4
	12月	1.6	1.3	0.7	6.6	0.8	1.0	0.7	0.3	5.8	0.6
14	1月	—	—	—	—	—	0.7	0.7	0.3	7.3	0.5

（出所）総務省統計局「消費者物価指数」

○ 着実に改善

総務省より発表された2013年12月の全国消費者物価指数（生鮮食品除く）は前年比+1.3%（11月+1.2%）と、前月からプラス幅が0.1%Pt拡大した。結果は市場予想（+1.2%）をやや上回った。生鮮食品を除く食料のプラス幅が予想以上に拡大したことが、CPIコアの予想上振れの主因。その他は、エネルギー価格がプラス寄与を縮小した一方、食料・エネルギーを除く総合（米国型コア）がプラス寄与を拡大しているが、これは事前の予想通り。

前年比+1.3%というCPIコアの上昇幅は、08年10月以来のことになる。上昇幅は着実に拡大しており、2ヶ月連続の+1%超えとなっている。また、食料・エネルギーを除く総合（米国型コア）の改善も続いており、内容も良好だ。米国型コアは13年10月にプラス転化したが、11月には前年比+0.6%、12月は+0.7%と、順調にプラス幅を拡大させている。+0.7%という上昇幅は、実に1998年8月以来の高さ。米国型コアの上昇は、足元の物価上昇が必ずしもエネルギーだけによるものではないことを示している。これまで

はエネルギー頼りの物価上昇だったが、足元では徐々に内容を伴った物価上昇に変わりつつある。国内景気の好調な推移が持続していることが、物価にも好影響を与えているのだろう。足元で上昇品目に広がりが出ていることも好材料だ。

CPIコアを品目別に見ると、電気冷蔵庫やルームエアコンなどの家庭用耐久財（前年比寄与度、11月：▲0.01%Pt → 12月：+0.01%Pt）や、テレビなどの教養娯楽用耐久財（前年比寄与度、11月：+0.02%Pt → 12月：+0.03%Pt）など、耐久財の改善が目立った。パソコン等の上昇も継続しており、このところの耐久財価格の改善トレンドに変化はない。円安によって輸入価格が上昇していることや消費税率引き上げ前の駆け込み需要などが影響しているとみられる。

そのほかの品目では、宿泊料がプラス寄与を拡大させたほか、前年の値下げの影響が一巡したことでインターネット接続料のマイナス寄与が消えた（前年比寄与度、11月：▲0.03%Pt → 12月：0.00%Pt）ことなどが押し上げている。

また、食料品（生鮮除く）は前年比寄与度が+0.18%Ptと、前月の+0.09%Ptから拡大し、CPIを押し上げた。内訳では、生鮮肉、卵、菓子類などのプラス寄与が拡大している。輸入価格上昇などのコスト増を転嫁する動きは続いており、当面、食料品の上昇は続く可能性が高いだろう。

一方、外国パック旅行やガソリン価格についてはプラス寄与度が縮小している。電気代、ガス代には大きな変化はない。

季節調整済みの前月比で見ると、CPIコアが▲0.1%（11月：+0.2%）、米国型コアは+0.1%（11月：+0.1%）だった。CPIコアがマイナスになるのは9ヶ月ぶりだが、改善基調に変化はない。米国型コアは3ヶ月連続のプラスとなり、緩やかな改善が続いている。

○ 東京都区部の動向

2014年1月の東京都区部消費者物価指数（生鮮食品除く）は前年比+0.7%と、プラス幅は前月と変わらなかった。結果は市場予想通り。また、米国型コアも前年比+0.3%と、前月から変化なし。

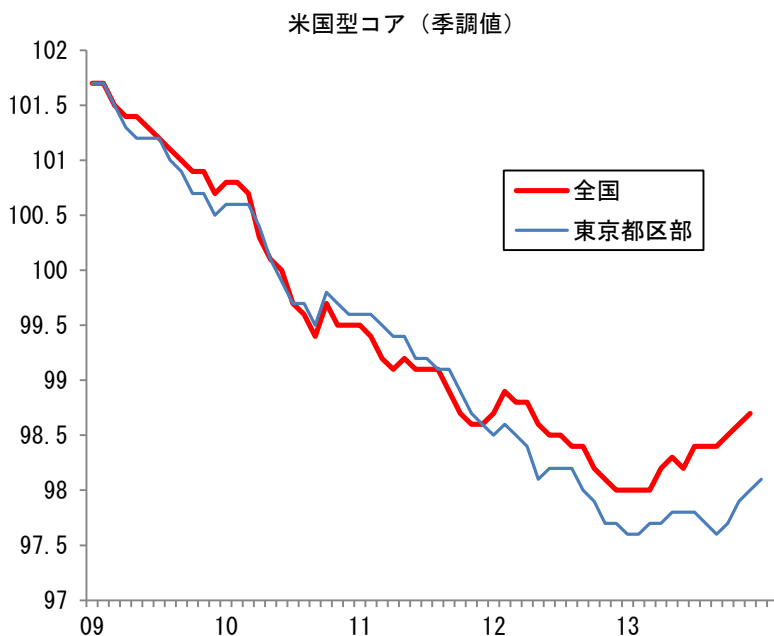
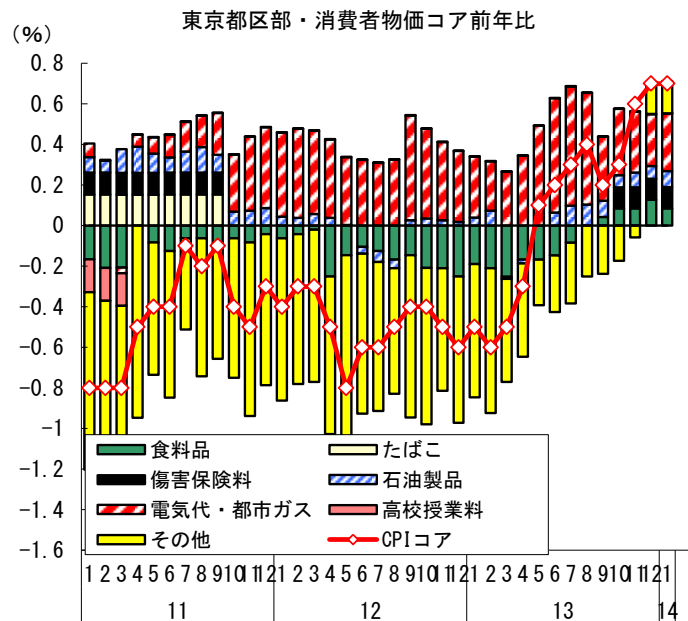
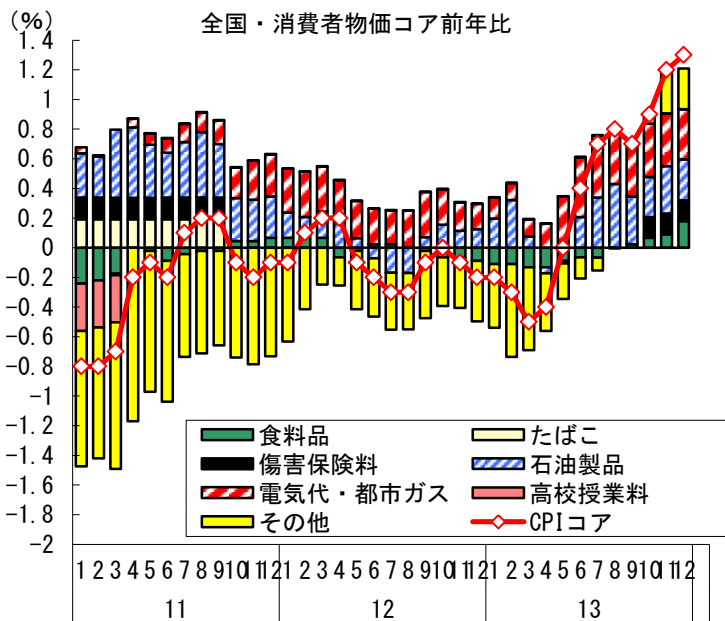
ルームエアコンやテレビなどの耐久消費財価格が引き続き上昇したが、宿泊料がマイナスに転じたことで相殺される形になり、米国型コアの伸び率は変わらなかった。また、ガソリンの値上げなどによりエネルギー価格のプラス寄与が拡大した一方、食料品（生鮮除く）のプラス寄与が縮小している。

季節調整済みの前月比で見ると、CPIコアが横ばい（12月：+0.1%）、米国型コアは+0.1%（12月：+0.1%）だった。米国型コアは4ヶ月連続のプラスであり、緩やかな上昇基調が続いている。

○ 当面、1%台前半での推移に

東京都区部の動向から判断すると、2014年1月の全国CPIコアは前年比+1.3%～+1.4%が予想される。上昇幅は12月と大きく変わらないが、引き続き+1%超えとなるだろう。その後、14年2月～4月については、前年比+1.2%～+1.5%程度の推移が予想される。当面、前年比+1%台前半（半ば？）での高原状態といった形になりそうだ。

問題は5月以降だ。13年にエネルギー価格が大幅に上昇したことの裏が出る関係で、エネルギー価格のプラス寄与は縮小に向かう。これによりCPIコアの伸び率はいったん鈍化する可能性が高いだろう。もっとも、景気回復に伴う需給ギャップの縮小が続くことに加え、企業や家計の期待インフレ率も緩やかに上昇する可能性が高く、米国型コアは引き続き緩やかに伸び率を高めていくことが見込まれる。CPIコアの上昇率が最も低下すると見られる14年夏場でも、+1%程度の伸びは確保できるのではないかと（消費税要因除く）。



(出所) 総務省「消費者物価指数」